



1. IFERC 事業委員会を開催

2013年3月21日～22日に、第12回のIFERC事業委員会が京都大学宇治キャンパスにおいて開催された。今回は、欧州側から、デイビッド・メゾニエ議長を含め委員3名と専門家4名(委員1名、専門家2名はTV会議で参加)、日本側は、委員3名と専門家7名、これに中島事業長および事業チーム員6名並びに書記1名の計25名が参加した(図1参照)。

今回の事業委員会では、核融合炉の安全性についての研究等を含め2012年のIFERC事業の年次報告を確認し、2012年に実施された原型炉R&Dに関するピアレビューの勧告に基づき実施する予定である、原型炉R&D活動の増強を中心とし、追加の設備等の設置を含めた原型炉設計活動の強化の新規提案並びにそれを反映した事業計画の改訂案を審議し、提案どおり4月に開催されるBA運営委員会への勧告をまとめた。次回の事業委員会は、2013年11月12～13日に六ヶ所で開催される予定である。

2. IFMIF/EVEDA 事業委員会を開催

3月21日～22日に第11回IFMIF/EVEDA事業委員会が国際核融合エネルギー研究センターにおいて開催された。今回は、欧州側から、委員2名と専門家6名、日本側は、秋場議長を含めて委員3名と専門家5名、これにナスター事業長および事業チーム員9名の計25名が参加した(図2参照)。

今回の事業委員会では、IFMIF原型加速器の入射器(入

射器の心臓部であるイオン源、マグネトロンおよび一部の周辺機器については3月末に六ヶ所に搬入された)やリチウム試験ループ(震災による損傷の復旧完了と第一期実証試験を開始、最大流速20 m/sの達成等)の状況を含めて、2012年のIFMIF/EVEDA事業の年次報告を確認し、それを反映した事業計画の改訂案を審議して、4月に開催される運営委員会への勧告をまとめた。また、工学設計活動については、当初のスケジュールどおり2013年6月に報告書が完成見込みであることが報告された。

次回の事業委員会は、2013年10月17～18日に六ヶ所で開催される予定である。

3. 計算機“六ちゃん”を巡る最近の状況

2月7～8日に“六ちゃん(HELIOS)”のユーザートレーニングを京都大学・吉田キャンパスおよび原子力機構那珂核融合研究所で開催し、それぞれ7名ずつが参加した。また、日本枠利用第2サイクル(2013年4月～2014年3月)における研究プロジェクトの公募を行い、IFERC-CSC利用委員会による応募プロジェクトの評価、資源配分プロセスを完了した。

“六ちゃん”の稼働/利用状況は、第2サイクル開始日以降、高い稼働率(利用できるノードの割合、>98%)および利用率(ユーザーが利用して計算に使用しているノード割合、>70%)を維持している。

(日本原子力研究開発機構核融合研究開発部門)



図1 IFERC 事業委員会の参加者(平成25年3月22日咲き始めた京大宇治キャンパスの桜をバックに)。



図2 IFMIF/EVEDA 事業委員会の参加者。(平成25年3月21日国際核融合エネルギー研究センターにて)